



医療安全コラム

医療安全小委員会

こんにちは。総合診療科の高長です。この病院で働き始めて最初に感じたことは、職員の皆さんの挨拶の良さです。職種や部署に関係なく毎日繰り返される挨拶は、当院の風通しの良さにもつながっていると考えます。安全な医療を提供するために一番大切なことは、個人個人の知識、意識です。周りがどんなに気を付けていても、どんなに環境を整えても、行動するのは個人です。個人個人の意識がミスを経時的に防ぐことができます。この病院のスタッフの親しみやすさ、接しやすさはさらにミスの減少につながっていると思います。日々の声掛けの多さは、医療の現場での助言や指摘につながると考えます。今後もスタッフとの声掛けを意識しつつ、良い医療を提供できるように頑張ります!

総合診療科 高長 紘平



New Face

新セーフティマネージャー (SMG)

木南 伸一 (一般・消化器外科)

セーフティマネージャーに選任していただき有難うございます。非力ではありますが努力いたします。本院でも同職でしたが、指導と現場との乖離、増え続けるルールなどで、委員も現場も疲弊する状況に不如意を感じていたところ、異動になりました (笑)。医療安全が大切なのは論を待ちませんが、みんなが笑顔になって、負担にならないようにしないとよい結果に結びつきません。楽しんでやりたいと思います。

横山 光輝 (整形外科)

安全安心の医療は患者さんのみならず、医療従事者においても何よりの願いです。4月に当院へ赴任し、外来、手術に追われるように過ごしていますが、なんとかインシデントを起こすことなく生活できています。ひとえに周りのスタッフの支えがあってこそと思います。職種間での連携を強化することで、それぞれがフォローし、互いのストレスを減らすことができるような環境整備に力を注ぎたいと考えています。どうぞご指導をお願いいたします。

眞柴 智 (救急科)

4月1日付けにて大学の救命救急科から当院救急科科長として異動してまいりました。今まで救急畑で仕事をやってまいりましたが、トラブルは多忙の時発生し、原因は説明不足と記載不備が多いと思います。救急外来では定期的な通院患者様でないことで信頼関係をなかなか築けないのも要因のひとつと考えており日々の診療をおこなっております。当院では不慣れな点多々ありますが、どうぞご指導の程宜しくお願ひいたします。

水橋 義和 (放射線科)

4月にセーフティマネージャーを任せられました放射線科の水橋です。当院における私の担当業務は読影室にこもってのデスクワークですので今回依頼されたセーフティマネージャーの仕事を引き受けるにしてもどのように貢献できるか私にはまったくわかりません。それを理解したうえでええ依頼があったということは周囲より何らかの貢献を期待されてのことだと思います。皆様にはいろいろと迷惑をかけること必須を存じますがよろしくお願ひ申し上げます。

東川 俊寛 (高齢医学科)

この度、セーフティマネージャーに選任された東川です。氷見市は高齢化率が30%を超えています。高齢者は、入院後の急変、転倒・骨折、誤嚥などが起こる可能性が高く、また医療者側も患者の名前確認のミスにより与薬間違いを起こす可能性があります。忙しい業務の間にチーム間で安全確認、ミスの少ない効率化等を目指します。自分も気を引き締めて望む予定であり、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

藤田 信之 (眼科)

4月より眼科勤務となりました藤田信之と申します。視覚障害等の感覚障害を来している患者さんは、転倒のリスクや医療スタッフと患者間での確認ミス等のリスクが高くなり、医療安全を考える上で特に注意が必要になります。これまでの経験が少しでも安全な医療の提供に役に立てるよう頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。

回覧																	

高野 由美子 (薬剤部)

4月から新セーフティマネージャーとなりました薬剤部の高野です。ここ近年は後発品の使用の増加、配合剤の増加、今までにない作用機序や使用方法の薬剤の登場により、インシデントが発生しやすい状況となっています。調剤室、病棟、その他院内で薬に関することに薬剤師が関わることにより、患者さんへ安全安心な医療を提供できるようにチーム医療の一員として薬剤部一丸となって日々努力をしていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

向 義博 (中央放射線部)

複数の医療スタッフが開く日常の放射線検査の中で放射線防護のことはもちろん、患者確認ミスや撮影部位間違いなどを未然防止したり、再発防止に努めていきたいと思います。そのためには働きやすい職場環境をめざし、一人一人が医療安全の意識をもって、患者さんに安心した医療を提供できるように部内で努力していきたいと考えています。

向 千春 (3階東病棟)

医療安全推進担者のバッジを胸につけると、気持ちが引き締まります。日頃より、患者安全を最優先し看護業務に当たってきました。日々多くのインシデント報告がありますが、もぐらたたきではなく、水面下に潜む問題に目を向けることを意識して対応していきたいと思います。病棟スタッフ全員が、患者安全が最優先であるという認識をもち、患者さんに優しく安全な医療を提供できるように、スクラムを組んでいきたいと思います。ご指導のほどよろしくお願ひします。

医療安全対策及び感染防止対策地域連携加算に係る相互ラウンド

令和元年7月9日(火)当院において、富山県立中央病院による相互ラウンドが実施されました。医療安全部門から6名、感染対策部門から6名の方が訪問され、書類審査及び、院内ラウンドを実施しました。感染防止対策に係る相互ラウンドは平成24年度から8年目、一方医療安全対策に係る相互ラウンドは平成30年度から2年目の実施となります。この取り組みは県内の公的病院が医療安全対策や感染対策に関する情報共有とお互いの活動状況を参考に業務改善に取り組むことを目的として行っています。特にスタッフが携帯している医療安全ハンドブックは、高い評価を受けました。スタッフの皆さんは、必ず携帯してください。



相互ラウンド風景

第19回富山県公的病院医療安全研究大会

令和元年6月29日(土)13時~17時富山県高岡文化ホールにおいて、第19回富山県公的病院医療安全研究大会が開催されました。当院から栄養部の松波俊弥管理栄養士が「医療安全に向けた病院管理栄養士の活動」のテーマで発表しました。特別講演は、「安全を守るための職員間のコミュニケーション」と題して東京海上日動メディカルサービス株式会社 主席研究員の山内桂子先生がご講演されました。専門的な知識や技術だけではなく、ノンテクニカルスキルの向上が重要であるという認識が、近年高まっています。講演では、ノンテクニカルスキルの中で重要なコミュニケーションを円滑に正確に行うためには、情報の送り手と受け手との間の「メンタルモデル」の共有促進が必要であり、「2回主張ルール」、「CUS^{註1)}」を活用した医療チームのメンバーが助け合うための確認や指摘のしやすい環境づくりを図ることが医療安全に必須であることを学べる内容でした。



栄養部松波管理栄養士

注1) CUS:「気になるます」、「不安です」、「これは安全の問題です」の英語表記の頭文字を表します。